

背景・目的

人口減少
少子高齢化地域の担い手不足
集落の活力低下大学生
事業

集落の活性化

+
関係人口の創出

◇平成21年度から実施し、これまで82集落・82グループ（43大学）が参加

◇主な参加大学：福島大、東北大、獨協大、宇都宮大、東洋大、宮城教育大、宮城大

R4.10月現在

集落活性化の取組

◎大学生の持つ
柔軟な視点や
感性・行動力を
活かした集落活性化◎県内外の若者と
集落の交流◎集落の主体的な
活動を支援<第1段階> スタートアップ
大学生の力を活用した集落復興支援事業

- ・1年目：集落の実態調査・活性化策の提案
- ・2年目：活性化策に基づいた実証活動

<共有・交流>
地域づくり交流会・
誇れる集落発信事業

- ・活動報告会
⇒気付きや学びによる活動の充実
- ・交流会
⇒活動の広がりや地域に対する思いの醸成

<第2段階> 伴走支援
集落自主活動に係る伴走支援事業

- ・3～4年目：
集落の主体的な取組に向けて
伴走支援。
⇒サポート事業への誘導により活動継続を支援

関係人口創出の取組

◎卒業後も継続的な交流や移住・定住へ

<卒業後> 新たな視点による支援
関係人口づくり強化事業

社会人としての新たな切り口からの地域活性化策の提案や就職先企業との関係づくり。

<卒業後> 交流継続に向けた愛着醸成
集落の小さな同窓会事業

かつて活動した集落で体験活動や同窓会を実施し、地域への愛着や人的つながりを創出。

集落活性化の事例

農家民宿でまちおこし

二本松市木幡地区水舟集落
×
宇都宮大学里計画研究会 H25～26, H30～R1農家
民宿

- 大学生が農家民泊ガイドラインを作成し、農家民宿体験を実施。
- 木幡地区では学生の提案を受け4軒の農家民宿が開業、現在は8軒が運営中。

竹の活用 SDGs

会津若松市大戸地区
×
会津短期大学部OOTOプロジェクト R1～地域
資源

- 伐採した竹を活用し、竹灯籠や生活雑貨の製作、竹酢液を使った野菜作りを実践。
- 収穫した野菜は、地元の高校生や企業と連携して販売。

交流活動継続宣言

只見町布沢区
×
宇都宮大学 D-friends（任意団体） H22～

交流

あんぽ柿 復っ活

伊達市梁川町五十沢地区
×
東洋大学藤井信幸ゼミ H27～30特産
品

- 風評による売上減少、検査に伴うコスト増等により苦戦していたあんぽ柿。
- 市場ニーズを捉えた少量販売、学生考案の包装デザイン、「発祥の地」の売り込みなど高付加価値の商品化に成功。



- 学生とOBが任意団体「D-friends」を結成し、区と「交流活動継続宣言」を締結。年間延べ約200人が地域を訪問し活動・交流を継続。
- 本事業のOBが地域おこし協力隊を経て「森林の分校 ふざわ」の支配人に就任。

関係人口・地域の担い手へ

地域おこし協力隊

西会津町中町
×
福島大学 岩崎ゼミ

- Aさんは西会津町民の人柄に惹かれ、令和4年4月より西会津町の地域おこし協力隊に着任。
- 集落支援を担当し、西会津町と他の地域をつなぐ架け橋として活躍中。

地域おこし協力隊→起業

南会津町耻風地区
×
獨協大学 大竹ゼミ

- Bさんは大学生事業をきっかけに、南会津町の地域おこし協力隊として3年間活動。
- 任期終了後も、南会津町に定住し直売所の運営、地元商品の県外への販売、製作したキッチンカーの営業に挑戦中。